

## 優秀賞

### 無理なんかじゃない

月形町立月形中学校 3年 伊藤 權



皆さん、突然ですが聞きします。  
「将来、人間は宇宙人と会話することができるとする人は挙手をお願いします。」  
と聞いたら、力強く、まっすぐに手を挙げる人はどれだけいるでしょう。挙手したら、周りの人におかしな目で見られるかもしれないから恥ずかしいと不安に思って、自信なく弱々しく手を挙げる人、そして、そんなことができるはずはないと挙手しない人が多いのではないのでしょうか。このように人間は安易に「不可能である」と決めつけてしまうことが少なくありません。

空を飛ぶ鳥を思い浮かべてください。限りなく広がる空の中、悠々と翼を広げて飛ぶ鳥。そんな姿に、一度はあこがれたことはありませんか。大昔の人も同じことを考えたのです。自分も空を飛んでみたいと。今から五〇〇年以上も前に、レオナルド・ダ・ヴィンチはヘリコプターの設計図を作り、その二五〇年後に気球が発明されました。きっとこの先人たちは、馬鹿にされたり、奇人扱いされたり何度も否定されたのだと思います。でも、人間は空を飛ぶという大いなる想いを胸に抱き続けました。そして、つい在一九〇三年、ライト兄弟が初めて飛行機の有人飛行に成功しました。その後改良を重ね、今現在「航空機」となって私達の移動手段の重要な役割を担っています。「鳥のように空を飛びたい」という夢が「航空機で世界中を行き来する」という社会の発展につながりました。

もし空を飛びたいという願望が完全に否定され、空を飛ぶことに挑戦するのを諦めてしまっていたら……。今私達の世界に飛行機というものも存在せず、社会もここまで発展しなかったでしょう。自分の願望を胸に秘め、成功を信じて着実に挑戦していた結果が実ったのです。

今、日本だけでなく世界中で輸血用の血液が不足しています。よく街中で献血を呼

びかける車やポスターを見ませんか。血液は、血液型が違う相手には輸血できず、O型だけがどの血液に輸血しても大丈夫です。しかし、O型はO型からしか輸血できません。そのため、多くの血液が不足しているのです。

そこで私は考えました。どの血液型にも輸血できる万能な人工血液があれば、多くの人が救われるのでは、と。そうすれば、輸血した人の血液型に合わせて型を変えられ、かつ献血の必要なく輸血できるではありませんか。私のこの考えはなんと、現在研究が進められているそうです。まだ実用化までは遠いようですが、近い未来きっと成功するでしょう。

何かに取り組むとき、一番最初に考えるべきことは、方法でも仮説でもありません。「できる」と信じることです。どんなに頭の中で考えたって、実際にやってみないとわかりません。第一に挑戦する。次に考える。そしてさらに挑戦する。このトライアンドエラーの繰り返しで人は発展してきたのです。

私も過去に「無理だ」と決めつけて、もう一步が踏み出せず、望まない結果になってしまって、「もっと前に踏み出せていればできたのに……。」と後悔した経験があります。でも「無理」ではなく「できる」と考えられたなら、「不可能」ではなく「可能」と考えることができたのなら、もっと挑戦してよりよい結果にたどり着くことができたと思います。未来は可能性に満ちている、そのチャンスを見捨ててしまうのは非常にもったいないことです。どんなことでも可能だと信じ、挑戦し、実現していける人に近づいていきたいです。

無理なんかじゃない、やればできる！